経済学部　公開講座
「日本経済の再生―震災を越えて」
西岡教授が第1回講演
低迷する日本経済復活のヒント探る

▲　150人超が熱心に聴講した

本学経済学部の教員が各回テーマ別に講義を行う公開講座「日本経済の再生―震災を越えて」（全6回）が5月19日から生田キャンパスで始まった（6月23日まで）。

第1回は「産業競争力の再生―車と電機の分かれ道」をテーマに、西岡幸一経済学部教授が講義。長い間、日本経済の根幹を担ってきた自動車産業と電機産業について語った。長引く不況や「リーマンショック」、さらに東日本大震災など、経済環境を悪化させる出来事が続き、また海外企業の台頭もあって、かつてのような勢いを失いつつある日本経済再生へのヒントはどこにあるのかを探った。興味深い講義に150人余の参加者が熱心に耳を傾けた。

西岡教授は「過剰に品質を重視し、新興国市場に対応した競争力のある低価格製品がないのが日本の欠点。価値品質で海外企業に遅れをとっている」と、メーカー側視点の「製造品質」ではなく、需要側の「価値品質」「使用品質」をもっと重視すべきだと語った。

本学着任前は、日本経済新聞の記者として多くの一流企業のトップを取材し、経済の動きを間近に見てきた西岡教授は、豊富な具体例で分かりやすく、時にユーモアを交えて講義。リアリティーのある内容に、参加者は満足した様子だった。

多摩区・3大学連携事業
多摩区長に成果を報告

地域社会と連携しながら課題解決に実践的に取り組む多摩区・3大学連携協議会の平成23年度事業報告が5月8日、多摩区役所で行われた。

本事業には本学からネットワーク情報学部の「コンテンツデザイン応用演習」（担当・上平崇仁教授、栗芝正臣准教授）を履修した2年次生（当時）37人が参加。登戸小6年生の理科「大地のつくり」に関連の体験型学習教材を開発、昨年12月に登戸小で授業を行い、今年3月には発表会が多摩市民館で開かれ成果を発表した。

当日は上平教授と栗芝准教授、SAとして参加した長沢成暁さん（ネット情報4）、成毛美帆さん（ネット情報4）が多摩区の池田健児区長に報告した。

池田区長は「登戸小からは、皆さんの教材が大変役立ったとの声が聞かれた。今後も大学との協力関係を深めていきたい」とあいさつし、さらなる連携へ期待を込めた。

▲　池田区長（右奥）に成果報告

心理教育相談室
豪・心理学者を招き被災者支援交流会
大学院生ら20人が参加

東日本大震災による福島第1原発事故で東京・神奈川周辺に避難している方々の心のケア支援や無料相談を行っている心理教育相談室（室長＝藤岡新治人間科学部教授）は被災地でのさまざまなサポート活動や研修会を開いている。

5月15、17の両日は、生田キャンパスでオーストラリアの心理学者3人を招き、被災者支援交流会を臨床心理士、臨床心理学専攻の大学院生ら同相談室のメンバー20人が参加して開催された。

3人は津波により大きな被害を受けた岩手県の山田町と岩手大学などを訪れた心理学者のリン・ペイジさん、ロス・マジロスさんと林陽子さん。リンさんは、昨年11月にも来日し、同相談室研修会の講師を務め、大学院生たちと交流した。

参加者は、3人が現地の人々に聞き取りをし、ビデオ撮影した山田町での映像を見ながら、歴史や経験（津波被害）から学ぶ大切さを、あらためて認識した。

ほぼ単一民族の日本に比べ、多民族国家のオーストラリアでは、被災地支援の方法もバラエティーに富む。人間が幸福になるためにどのように生き、物事を考えたらいいのかを研究する「ポジティブサイコロジー」を取り入れている。

災害時においても将来を前向きに見据えるメンタルケアを行うオーストラリアの支援の在り方に、多くの質問が寄せられた。

▲　ビデオ撮影した被災地の映像を見ながら教訓の大切さを学んだ

心理教育相談室が公開講座
「加齢が認知機能に与える影響と脳トレーニング」
岡村准教授が講演

心理教育相談室主催の一般公開講座「加齢が認知機能に与える影響と脳トレーニング」が5月12日、本学サテライトキャンパスで開催された。講師は岡村陽子人間科学部准教授。

はじめに加齢によって訪れる身体面、認知面の変化について解説。岡村准教授は、「新しい状況や未知の問題に対して柔軟に対応する能力（流動性知能）は年齢とともに低下していくが、練習や教育などの過去の学習経験を通して確立された判断力や習慣（結晶性知能）は加齢によっても変化しない」と語った。

後半の講義では認知症について詳しく説明。原因や症状だけでなく、認知障害の改善をはかるための脳トレーニングについても解説した。

40人の参加者は熱心にメモをとり、最後の質疑応答では活発な意見交換がなされた。当日は心理学研究科の大学院生が認知テスト体験の際に手伝いをするなど協力した。

また、講座で紹介した認知訓練や認知機能に関する相談は、通常の相談室でも受け付けている。

▲　岡村准教授の講演に熱心に聴き入る参加者

図書館 春の企画展で講演会とギャラリートーク

5月9日から29日まで生田キャンパスで開催された専修大学図書館春の企画展「はじめて観るマニュスクリプト―世界でひとつという魅力―」の講演会が生田キャンパスで、5月19日に開かれ、およそ30人が聴講した。

はじめに松下知紀専修大学文学部教授が「西洋写本と文化の伝承」をテーマに講演。世界各国の博物館などに保存されている西洋写本（マニュスクリプト）の画像を示しながら、その歴史や魅力を解説した。聴講者は、「書画カメラ」で映し出された美しい西洋写本の数々に魅せられた様子だった。

続いて「『薔薇物語』の世界―夢とアレゴリー」と題して、白百合女子大学文学部の篠田勝英教授が、中世の西洋写本についての概論と、西洋写本の代表的な作品のひとつである「薔薇物語」について解説。聴講者からは多くの質問が寄せられた。

講演会終了後は図書館本館で貴重な西洋写本を鑑賞しながら松下教授によるギャラリートークが行われた。

▲　松下文学部教授によるギャラリートーク

▲　講演する白百合女子大・篠田教授

美しい西洋写本の世界を紹介

公開講座情報

社会知性開発研究センター／心理科学研究センター主催シンポジウム
「不安、うつ、妄想に挑む心理学：臨床と基礎の融合を目指して」
▽日時＝6月16日（土）13時30分～▽会場＝生田キャンパス10101教室▽研究報告＝大久保街亜人間科学部准教授▽講演＝金井嘉宏氏（東北学院大学准教授）／国里愛彦氏（早稲田大学助手）／浅井智久氏（千葉大学・日本学術振興会特別研究員SPD）▽指定討論＝長田洋和人間科学部教授（同センター代表）

社会知性開発研究センター／社会関係資本研究センター主催シンポジウム
「協働社会へのチャレンジ～被災地における社会関係資本を活かす試み～」
▽日時＝7月14日（土）13時～▽会場＝神田キャンパス731教室▽基調講演＝野田武則・釜石市長／玄田有史・東京大学社会科学研究所教授▽被災地・石巻からのレポート＝大矢根淳・人間科学部教授／李東勲・石巻専修大学経営学部准教授／布施龍一・NPO法人フェアトレード東北代表▽パネル・ディスカッション

※両講座の申し込み先
E-mail=socio@acc.senshu-u.ac.jp

専修人の新しい本

経営入門
―よい経営の創り方、よい経営学の学び方―

加藤茂夫　編著
笠原伸一郎・今井雅和・山田耕嗣・間嶋崇　共著

本書は経営学部1年次生対象の「経営入門」を担当する5人の教員による共著である。企業をどのようにかじ取りすべきか、組織メンバーはどう考え、どう行動すべきかを世に問うている。「企業論」「組織と戦略編」「会社と社会編」「会社と世界編」「経営学とその研究法編」の5部構成になっており、初学者が経営学の基礎を学ぶとともに、最新の話題に触れることができるように工夫されている。付録の経営（学）関連年表には1880年創立の本学が日本では最も長い歴史を誇る大学の1つであり、今年50周年を迎えた経営学部もわが国経営学教育の黎明期に設立されたことが記されている。（学文社・本体2100円＋税）

編著者（かとう・しげお）経営学部教授
共著者（かさはら・しんいいちろう）経営学部教授／（いまい・まさかず）経営学部教授／（やまだ・こうじ）経営学部准教授／（まじま・たかし）経営学部准教授

経済・経営・商学のための実践データ分析
―アンケート・購買履歴データをいかす―

奥瀬喜之　共著

社会科学におけるデータ解析の環境は格段に向上した一方、容易に分析が「できてしまう」ことは危険もはらんでいる。分析手法に関する正しい理解がないと使い方を間違え、誤った解釈や結論を導いてしまう可能性がある。

本書は、そのような誤用を防ぐには、分析の「しくみ」を知ることが重要であるという前提に立っている。その前提の下で「どのような時にどう使えばいいのか」「どのようなことに気をつける必要があるのか」を理解してもらうことをねらいとしたテキストである。

商学が専門である奥瀬が講義経験をもとに本文を執筆、情報科学が専門である久保山が関連情報を紹介するコラムを執筆した。（講談社・本体1800円＋税）

共著者（おくせ・よしゆき）＝商学部教授。主な担当は「マーケティングリサーチ」「消費者行動」